

天意を識る (西郷南洲)

一貫す 唯々の 諾

従来 鉄石の 肝

貧居 傑士を 生じ

勲業 多難に 顕わる

雪に 耐えて 梅花 麗わしく

霜を 経て 楓葉 丹し

如し 能く 天意を 識らば

豈 敢えて 自ら 安きを 謀らんや

一貫唯唯諾 従来鐵石肝  
貧居生傑士 勲業顯多難  
耐雪梅花麗 經霜楓葉丹  
如能識天意 壺敢自謀安

解説 妹の長男、市来政道に対して人生の何たるかを教えさせたもの。

語釈 ※一貫唯唯諾 〓 いったん人に許したら、生涯貫き通すの意。 ※従来 〓 元来。これ  
まですつと。 ※鉄石 〓 極めて堅いことのたとえ。 ※勲業 〓 功績・功業に同じ。て  
がら。 ※多難 〓 多事多難。難儀災厄のしきりに起こること。 ※梅花 〓 梅は苦難にうちか  
つ象徴として扱われることが多い。 ※楓葉 〓 紅葉した楓の葉。 ※天意 〓 天帝の心。 ※豈  
〓 反語の辞。 どうしてこのようなことがあるのか、そのようなことは決してないの意。

通釈 至誠一貫、男子たるものは、生涯これを決意して過ささなければならぬ。一度  
承知したことは、どのような事態に立ち至ろうとも、決して背いてはならない。それに  
はどんなことにも動かされない強い心を常に持つことである。窮迫の明け暮れの中にこ  
そ偉大なる人物は生まれ、国家多難のような時にこそ、秀れた業績も成し遂げられる。  
見よ、梅花は他の花が眠る厳冬の中に耐え忍ぶからこそそうなるわしく、楓は他の葉が落ち  
つくしてのち、なお幾たびも冷たい霜を受けるからこそ赤く美しい。このように苦勞の  
末にこそ成果を見ることが天の道理であるならば、どうして何もせずに耽つてよい  
ことがあるのか、いや、そのようなことは断じてあつてはならない。